

2022年度
金沢学院大学
学生の学修状況・学修成果等の
検証報告書

2023年3月31日
金沢学院大学

目次

I. アドミッションポリシーの評価	1
1. 評価資料	1
1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）	1
1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思	1
1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、 2-2 参照）	1
1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1、 3-2、 3-3 参照） ...	2
2. 各学科の評価	7
2-1. 文学部文学科	7
2-2. 教育学部教育学科	10
2-3. 経済学部	13
2-3-1. 経済学科	13
2-3-2. 経営学科	16
2-4. 経済情報学部経済情報学科	19
2-5. 芸術学部芸術学科	22
2-6. スポーツ科学部スポーツ科学科	25
一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか	25
2-7. 栄養学部栄養学科	28
一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか	28
3. 大学のアドミッションポリシーに関する総合評価	31
II. カリキュラムポリシーの評価	32
1. 評価資料	32
2. 各学科の評価	33
2-1. 文学部	33
2-1-1. 文学科	33
2-1-2. 教育学科	34
2-2. 経営情報学部経営情報学科	35
2-3. 経済学部経済学科／経営学科	36
2-4. 経済情報学部経済情報学科	37
2-5. 芸術学部芸術学科	38
2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部	39
2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科	39
2-6-2. スポーツ科学部スポーツ健康学科	39
2-6-3. 人間健康学部健康栄養学科	41
2-6-4. 栄養学部栄養学科	41
3. 大学のカリキュラムポリシーに関する総合評価	43
III. ディプロマポリシーの評価	44

1. 評価資料.....	44
2. 各学科の評価.....	45
2-1. 文学部.....	45
2-1-1. 文学科.....	45
2-1-2. 教育学科.....	45
2-2. 経営情報学部経営情報学科.....	47
2-3. 経済学部.....	47
2-3-1. 経済学科.....	47
2-3-2. 経営学科.....	47
2-4. 経済情報学部経済情報学科.....	47
2-5. 芸術学部芸術学科.....	48
2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部.....	49
2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科.....	49
2-6-2. スポーツ科学部スポーツ科学科.....	49
2-6-3. 健康栄養学科.....	49
2-6-4. 栄養学部栄養学科.....	50
3. ディプロマポリシーに関する総合評価.....	51

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）

2022 年度入学生に対して、入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均と標準偏差を大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均について、大学平均+1 標準偏差以上を「学内平均を上回る」、大学平均±1 標準偏差の範囲を「学内平均並み」、大学平均-1 標準偏差未満を「学内平均を下回った」と表記した。また各学科及び各入試区分の総合成績の平均を個人の得点と見なし、学内偏差値を算出した。

大学全体の基礎学力確認テストの受験者は 877 名（前年度比+25 名）であった。平均点は、英語（35 点満点）が 18.3 点（ $SD = 6.69$ ）で前年度比-0.8 点、数学（30 点満点）が 22.6 点（ $SD = 4.40$ ）で前年度比-0.2 点、2 科目の総合成績（65 点満点）が 40.9 点（ $SD = 9.66$ ）で前年度比-0.9 点であった。いずれの平均もほぼ前年度並みとなり、標準偏差もほとんど変化がなかった。

1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、 2-2 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全 23 項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う 2 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野

④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない

⑥その他

である。

回答者は大学全体で 876 名（前年度比+24）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

学修意欲を尋ねる項目 2 の有効回答数は、大学全体で 874 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても持っている：383 名（43.8%、-1.3 ポイント）

②まあまあ持っている：465 名（53.2%、+2.8 ポイント）

③あまり持っていない：24 名（2.7%、-0.6 ポイント）

④持っていない：2名（0.2%、-0.6ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は97.0%（前年度比+1.1ポイント）であり、大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目23の有効回答数は、大学全体で873名分（前年度比+23）であった。回答の内訳は以下の通りである（表2-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①一致している：625名（71.6%、-3.5ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：135名（15.5%、+0.4ポイント）

③興味関心とは異なる分野：12名（1.4%、-0.6ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：80名（9.2%、+2.8ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：14名（1.6%、+0.3ポイント）

⑥その他：7名（0.8%、+0.6ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は87.1%（前年度比-3.0ポイント）であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。ただし、全体の約9%に相当する学生が「まだ自分の興味関心がわからない」と回答しており、この点については今後も注視する必要がある。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表3-1、3-2、3-3参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、今後の学修や大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う3つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う

③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

回答者は大学全体で876名であったが、集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

大学生活への期待感を尋ねる項目4の有効回答数は大学全体で876名分となり、欠損値はなかった。回答の内訳は以下の通りである（表3-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①とても楽しみ：310名（35.4%、+1.6ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：495名（56.5%、-1.1ポイント）
- ③あまり楽しみではない：64名（7.3%、-0.4ポイント）
- ④楽しみではない：7名（0.8%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は91.9%（前年度比+0.5ポイント）であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目9の有効回答数は、大学全体で873名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①ある：106名（12.1%、-0.5ポイント）
- ②まあまあある：420名（48.1%、+3.3ポイント）
- ③あまりない：305名（34.9%、-2.3ポイント）
- ④ない：42名（4.8%、-0.6ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は60.3%（前年度比+2.9ポイント）である。大学全体でも学科別でも、最も回答が多くなったのは選択肢②である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も4割程度いることがわかる。対象となった新入生が高校2年生であったときに新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、その後の2年間に渡ってオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できなかったことも影響している可能性がある。

この大学で学び続けられそうか（入学してよかったと思うか）を尋ねる項目22の有効回答数は、大学全体で876名分となり、欠損値はなかった。回答の内訳は以下の通りである（表3-3）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①とてもそう思う：331名（37.8%、+1.3ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：486名（55.5%、-0.7ポイント）
- ③あまりそう思わない：55名（6.3%、+0.2ポイント）
- ④まったくそう思わない：4名（0.5%、-0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は93.3%（前年度比+0.6ポイント）であり、大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表 1. 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	195	21.1	6.40	35	5
教育学科	72	20.7	6.66	33	5
経済学科	109	16.2	5.81	30	5
経営学科	95	16.4	6.22	32	4
経済情報学科	74	15.9	6.15	32	4
芸術学科	73	19.3	6.54	32	6
スポーツ科学科	171	15.2	5.67	30	3
栄養学科	88	22.0	6.05	32	8
全体	877	18.3	6.69	35	3

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	195	23.1	4.05	30	9
教育学科	72	24.6	4.35	30	13
経済学科	109	22.2	4.55	30	9
経営学科	95	22.0	4.83	29	7
経済情報学科	74	22.7	3.97	29	7
芸術学科	73	22.7	3.84	29	13
スポーツ科学科	171	20.8	4.51	29	5
栄養学科	88	24.3	3.93	30	5
全体	877	22.6	4.40	30	5

総合（英語+数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	195	44.2	8.83	65	14
教育学科	72	45.3	9.47	63	24
経済学科	109	38.4	8.82	57	17
経営学科	95	38.4	9.83	61	16
経済情報学科	74	38.6	8.55	59	16
芸術学科	73	42.0	8.48	59	23
スポーツ科学科	171	36.0	8.83	57	11
栄養学科	88	46.3	8.70	62	23
全体	877	40.9	9.66	63	11

表 2-1. 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても持っている	44.3	65.3	35.2	36.8	20.3	41.1	44.7	63.6	43.8
まあまあ持っている	54.1	34.7	60.2	58.9	74.3	53.4	52.4	35.2	53.2
あまり持っていない	1.5		3.7	4.2	5.4	4.1	2.9	1.1	2.7
持っていない			0.9			1.4			0.2

表 2-2. 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
一致している	73.3	73.6	52.3	64.9	51.4	80.6	79.9	90.9	71.6
一致していないが、 興味関心に近い分野	15.9	18.1	22.0	16.0	21.6	13.9	12.4	5.7	15.5
興味関心とは異なる 分野	0.5	2.8	4.6	1.1	4.1				1.4
まだ自分の興味関心 がわからない	8.2	4.2	18.3	14.9	18.9	2.8	5.3	2.3	9.2
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない	1.5	1.4	1.8	1.1	2.7	1.4	1.8	1.1	1.6
その他	0.5		0.9	2.1	1.4	1.4	0.6		0.8

表 3-1. 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても楽しみ	27.2	36.1	30.3	43.2	28.4	31.5	47.1	37.5	35.4
まあまあ楽しみ	64.1	54.2	58.7	50.5	60.8	63.0	45.3	58.0	56.5
あまり楽しみではない	7.7	9.7	9.2	5.3	9.5	5.5	7.1	4.5	7.3
楽しみではない	1.0	0.0	1.8	1.1	1.4	0.0	0.6	0.0	0.8

表 3-2. 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
ある	6.7	15.3	10.2	17.9	14.9	5.5	15.9	13.6	12.1
まあまあある	45.6	40.3	47.2	51.6	45.9	54.8	52.9	44.3	48.1
あまりない	42.5	33.3	38.0	26.3	33.8	35.6	27.6	39.8	34.9
ない	5.2	11.1	4.6	4.2	5.4	4.1	3.5	2.3	4.8

表 3-3. 項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とてもそう思う	33.8	40.3	25.7	42.1	23.0	35.6	51.2	43.2	37.8
どちらかといえばそう思う	63.1	47.2	62.4	50.5	70.3	57.5	41.8	54.5	55.5
あまりそう思わない	2.6	11.1	11.9	6.3	6.8	6.8	6.5	2.3	6.3
まったくそう思わない	0.5	1.4		1.1			0.6		0.5

2. 各学科の評価

2-1. 文学部文学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：21.1 ($SD=6.40$)、数学：23.1 ($SD=4.05$)、総合 44.2 ($SD=8.83$)

文学科の基礎学力確認テストの受験者数は 195 名（前年度比+7 名）であった。英語と総合成績は大学平均より 2 点以上高くなったが、数学は大学平均に対して+0.5 点で、大学平均並みであった。総合成績の平均は 44.2 点 ($SD=8.83$) で、大学平均 (40.9 点) よりも 3.3 点高く、前年度比で-0.2 点であった。前年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると 53.42 となり、学科間の比較では大学全体の中で上位から中位に位置すると言える。

総合成績を入試区分別に検討すると、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、総合成績の学内偏差値が 60.13 となった。この区分の受験者の比率は 17.4% である。この他、一般選抜の受験者（学内偏差値 55.62）と公募制推薦（専願制）の受験者（学内偏差値 54.40）で、やや高めの成績が出ている。特に、公募制推薦（専願制）の学内偏差値が 50 を超える学科は、文学科と栄養学科のみである。学内偏差値が 45 に届かない入試区分はなかったが、各エントリー入試の区分で学内偏差値が 45 台となっている。

総合成績において大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=31.2 点以上）の受験者は学科の 90.3% を占める。大学平均-1 標準偏差未満=31.2 点未満（受験者全体の下位 15.93% に相当）の受験者の比率は 9.7% で、前年度よりも 0.4 ポイント下がった。

評価

基本的な学力にややばらつきはあるものの、学内偏差値が 40 に届かない入試区分はなく、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：194 名（欠損 1）

- ①とても持っている：86 名（44.3%、+0.2 ポイント）
- ②まあまあ持っている：105 名（54.1%、+0.9 ポイント）
- ③あまり持っていない：3 名（1.5%、-1.2 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 98.5%（前年度比+1.2 ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも 1.5 ポイント高くなった。「持っていない」と回答した入学者はおらず、学修意欲がある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：195 名（欠損なし）

- ①一致している：143 名（73.3%、-4.9 ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：31 名（15.9%、+2.6 ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：1 名（0.5%、-1.6 ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：10 名（8.2%、+2.9 ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：3 名（1.5%、+0.4 ポイント）
- ⑥その他：1 名（0.5%、+0.5 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 89.2%（前年度比-2.3 ポイント）であり、大学全体の数値（87.1%）よりも 2.1 ポイント高くなった。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：195 名（欠損なし）

- ①とても楽しみ：53 名（27.2/31.4%、-4.2 ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：125 名（64.1/58.0%、+6.1 ポイント）
- ③あまり楽しみではない：15 名（7.7/9.6%、-1.9 ポイント）
- ④楽しみではない：2 名（1.0%、-0.1 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 91.3%（前年度比+1.9 ポイント）であり、大学全体の数値（91.9%）とほぼ同じであった。学科全体の約 90%が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表 3-2）

有効回答数：193 名（欠損 2）

- ①ある：13 名（6.7%、+0.7 ポイント）

②まあまあある：88名（45.6%、+3.0ポイント）

③あまりない：82名（42.5%、-0.1ポイント）

④ない：10名（5.2%、-2.2ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は52.3%（前年度比+2.3ポイント）である。大学全体の数値（60.3%）よりも8ポイント低く、約半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校2年～3年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」（表3-3）

有効回答数：195名（欠損なし）

①とてもそう思う：66名（33.8%、+4.0ポイント）

②どちらかといえばそう思う：123名（63.1%、-0.2ポイント）

③あまりそう思わない：5名（2.6%、-2.2ポイント）

④まったくそう思わない：1名（0.5%、-1.6ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は96.9%（前年度比+3.8ポイント）であり、大学全体の数値（93.3%）よりも3.6ポイント高くなった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、文学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2. 教育学部教育学科

教育学部教育学科は、文学部教育学科からの改組によって2022年度に発足した新学科である。そこで、以下の前年度との比較においては文学部教育学科を比較対象とする。

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：20.7 ($SD=6.66$)、数学：24.6 ($SD=4.35$)、総合45.3 ($SD=9.47$)

教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は72名（前年度比－18名）であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均より2点以上高くなった。総合成績の平均は45.3点 ($SD=9.47$) で、大学平均（40.9点）よりも4.4点高く、同学科の前年度比でも+0.5点であった。前年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると54.56となり、学科間の比較では大学全体の中で上位に位置すると言える。

総合成績を入試区分別に検討すると、**一般選抜（学内偏差値61.19）、公募制推薦（併願制、学内偏差値59.43）、共通テスト利用選抜（学内偏差値59.08）、指定校推薦（学内偏差値55.73）**の成績が高く、これら4つの区分の受験者の比率は学科の56.9%である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分もあったが、この区分の受験者は1名のみであった。

総合成績において大学平均以上または大学平均並み（大学平均－1標準偏差以上＝31.2点以上）の受験者は学科の88.9%を占める。大学平均－1標準偏差未満＝31.2点未満（受験者全体の下位15.93%に相当）の受験者の比率は11.1%で、前年度よりも1.1ポイント上がった。

評価

基本的な学力は学内でも比較的高い方に位置する学科である。大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：72名分（欠損なし）

- ①とても持っている：47名（65.3%、+3.1ポイント）
- ②まあまあ持っている：25名（34.7%、+2.5ポイント）
- ③あまり持っていない：0名（-4.4ポイント）
- ④持っていない：0名（-1.1ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計が100.0%（前年度比+5.6%）で、大学全体の数値（97.0%）よりも3.0ポ

イント高く、「あまり持っていない／持っていない」と回答した学生はいなかった。新入生全員が、学修意欲があると回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：72 名分 (欠損なし)

- ①一致している：54 名 (74.6%、-7.2 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：13 名 (18.1%、+10.2 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：2 名 (2.8%、-2.8 ポイント)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：3 名 (4.2%、-0.8 ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名 (+1.4 ポイント)
- ⑥その他：0 名 (-1.1 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 91.7% (前年度比+1.8 ポイント) であり、大学全体の数値 (87.1%) よりも 4.6 ポイント高くなった。前年度に比べ、「一致している」と回答した学生の数約 7 ポイント下がったものの、前年度と同様に、小中学校の教員や幼稚園教諭、保育士など、卒業後の進路が明確な教育学科の特性を理解し、それらの進路を目指す学生が、多く入学したことが窺える。したがって、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：72 名分 (欠損なし)

- ①とても楽しみ：26 名 (36.1%、-1.7 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：39 名 (54.2%、-1.4 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：7 名 (9.7%、+5.3 ポイント)
- ④楽しみではない：0 名 (-2.2 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 90.3% (前年度比-3.3 ポイント) であり、大学全体の数値 (91.9%) よりも 1.6 ポイント低くなった。学科全体の約 90%が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：72 名分 (欠損なし)

- ①ある：11名（15.3%、+5.3ポイント）
- ②まあまあある：29名（40.3%、-4.1ポイント）
- ③あまりない：24名（33.3%、-6.7ポイント）
- ④ない：8名（11.1%、-5.5ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は55.6%（前年度比+1.2ポイント）である。大学全体の数値（60.3%）よりも4.7ポイント低く、学びの目標が比較的明確な学科であるにもかかわらず、約半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校2年～3年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」（表 3-3）

有効回答数：72名分（欠損なし）

- ①とてもそう思う：29名（40.3%、+3.6ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：34名（47.2%、-8.4ポイント）
- ③あまりそう思わない：8名（11.1%、+4.4ポイント）
- ④まったくそう思わない：1名（1.4%、+0.3ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は87.5%（前年度比-4.6ポイント）であり、大学全体の数値（93.3%）よりも5.8ポイント低くなった。85%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3. 経済学部

2-3-1. 経済学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：16.2 ($SD = 5.81$)、数学：22.2 ($SD = 4.55$)、総合 38.4 ($SD = 8.82$)

経済学科の基礎学力確認テストの受験者数は109名であった（前年度比+30名）。英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均よりもわずかに低くなった。総合成績の平均は38.4 ($SD = 8.82$)で、大学平均（41.8点）よりも3.4点低くなった。前年度比では-4.1点であった。標準偏差が英語、数学、総合成績のいずれも前年度よりやや小さくなっているが、これは受験者の人数が増えたことと関係している。前年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると47.42となり、学科間の比較では大学全体の中で中位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値56.53）と一般選抜（55.49）で入学した受験者の成績が高くなった。これらの区分の受験者の比率は学科の27.5%である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の45.0%であった。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1標準偏差以上=31.2点以上）の受験者は学科の80.7%を占める。大学平均-1標準偏差以下（受験者全体の下位15.93%）に相当する受験者の比率は19.3%で、前年度よりも1.6ポイント上がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、新入生の約19%に学力的な問題が示唆されるが、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：108名分（欠損1名）

- ①とても持っている：38名（35.2%、-1.5ポイント）
- ②まあまあ持っている：65名（60.2%、+2.0ポイント）
- ③あまり持っていない：4名（3.7%、-1.4ポイント）
- ④持っていない：1名（+0.9ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は95.4%（前年度比-2.5ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも1.6ポイント低くなった。学修意欲があると回答した学生が95%に達しており、学修意欲のある学

生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：109 名分 (欠損なし)

- ①一致している：57 名 (52.3%、-4.7 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：24 名 (22.0%、+0.5 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：5 名 (4.6%、+0.8 ポイント)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：20 名 (18.3%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2 名 (1.8%)
- ⑥その他：1 名 (0.9%、+0.9 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 74.3% (前年度比-4.4 ポイント) であり、大学全体の数値 (87.1%) よりも 12.8 ポイント低く、全学科の中で 80%未満の 2 学科のうちの 1 学科である。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言えるが、選択肢④と選択肢⑤の合計が 20.2% と 2 割を超えているなど、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：109 名分 (欠損なし)

- ①とても楽しみ：33 名 (30.3%、-1.3 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：64 名 (58.7%、+1.7 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：10 名 (9.2%、-2.2 ポイント)
- ④楽しみではない：2 名 (1.8%、+1.8 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 89.0% (前年度比+0.4 ポイント) であり、大学全体の数値 (91.9%) より 2.9 ポイント低くなった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：108 名分 (欠損 1)

- ①ある：11 名 (10.2%、+1.3 ポイント)
- ②まあまあある：51 名 (47.2%、-3.4 ポイント)

③あまりない：41名（38.0%、+1.3ポイント）

④ない：5名（4.6%、+0.8ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は57.4%（前年度比-2.1ポイント）で、大学全体の数値（60.3%）よりも2.9ポイント低くなった。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校2年～3年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表3-3）

有効回答数：109名分（欠損なし）

①とてもそう思う：28名（25.7%、-8.5ポイント）

②どちらかといえばそう思う：68名（62.4%、+9.2ポイント）

③あまりそう思わない：13名（11.9%、+0.5ポイント）

④まったくそう思わない：0名（-1.3ポイント）

※比率の増減の合計が0にならないのは、小数点以下の丸めの関係による

選択肢①と選択肢②の合計は88.1%（前年度比+0.8ポイント）であった。大学全体の数値（93.3%）より5.2ポイント低くなった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、学科の学修内容と興味関心の一致の程度が低いことや、今後の大学生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3-2. 経営学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：16.4 ($SD=6.22$)、数学：22.0 ($SD=4.83$)、総合 38.4 ($SD=9.83$)

経営学科の基礎学力確認テストの受験者数は 95/77 名であった（前年度比+18 名）。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。総合成績の平均は 38.4 点 ($SD=9.83$) で、大学平均 (40.9 点) を 2.5 点下回ったが、その幅は前年度よりも 2.0 点小さくなった。前年度比では -1.1 点で、ほぼ同等の学力を備えている。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると 47.42 となり、学科間の比較では大学全体の中で中位に位置すると言える。

入試区分別では、一般選抜（学内偏差値 59.77）と共通テスト利用選抜（学内偏差値 56.32）で入学した受験者の成績が高かった。この区分の入学者の比率は 11.6% である。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分の受験者は学科の 26.3% であった。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 73.7% を占める。大学平均 -1 標準偏差以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 26.3% で、前年度よりも 3.6 ポイント下がった。総合成績が大学平均に届かない受験者は、学科の約 84% に相当する。学内偏差値換算で 40 を割る入試区分もあり、一部の学生の基礎学力には懸念がある。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約 74% は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：95 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：35 名（36.8%、+8.2 ポイント）
- ②まあまあ持っている：56 名（58.9%、-3.4 ポイント）
- ③あまり持っていない：4 名（4.2%、-3.6 ポイント）
- ④持っていない：0 名（-1.3 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 95.8%（前年度比+4.9 ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも 1.2 ポイント低くなった。学修意欲があると回答した学生は 90% を超えており、学修意欲のある学

生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：94 名分 (欠損 1)

- ①一致している：61 名 (64.9%、+3.1 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：15 名 (16.0%、-3.7 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：1 名 (1.1%、-0.2 ポイント)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：14 名 (14.9%、-0.9 ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名 (1.1%、-0.2 ポイント)
- ⑥その他：2 名 (2.1%、+2.1 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 80.9% (前年度比-0.7 ポイント) であった。大学全体の数値 (87.1%) よりも 6.2 ポイント低くなった。学科全体では 80% の学生が興味を持つ分野であると回答しており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。ただし、選択肢④と選択肢⑤の合計が 16.0% に達しており、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：95 名分 (欠損なし)

- ①とても楽しみ：41 名 (43.2%、+12.0 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：48 名 (50.5%、-9.2 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：5 名 (5.3%、-2.5 ポイント)
- ④楽しみではない：1 名 (1.1%、増減なし)

※比率の増減の合計が 0 にならないのは、小数点以下の丸めの関係による

選択肢①と選択肢②の合計は 93.7% (前年度比+2.8 ポイント) であり、大学全体の数値 (91.9%) よりも 1.8 ポイント高くなった。今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：95 名分

- ①ある：17 名 (17.9%、+3.6 ポイント)

②まあまあある：49名（51.6%、+11.3ポイント）

③あまりない：25名（26.3%、-14.0ポイント）

④ない：4名（4.2%、-1.0ポイント）

※比率の増減の合計が0にならないのは、小数点以下の丸めの関係による

選択肢①と選択肢②の合計は69.5%（前年度比+15.0ポイント）で、大学全体の数値（60.3%）よりも9.2ポイント高く、全学科の中で最も高い値となった。約70%の学生が今後の大学生活へのイメージを持っており、他学科とは大きく傾向が異なっている。

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表3-3）

有効回答数：95名分（欠損なし）

①とてもそう思う：40名（42.1%、+6.6ポイント）

②どちらかといえばそう思う：48名（50.5%、-6.1ポイント）

③あまりそう思わない：6名（6.3%、-0.3ポイント）

④まったくそう思わない：1名（1.1%、-0.2ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は92.6（前年度比+0.5ポイント）%で、大学全体の数値（93.3%）とほぼ同じであった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも80%以上の学生が高いと回答している。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、経営学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.9 ($SD = 6.15$)、数学：22.7 ($SD = 3.97$)、総合 38.6 ($SD = 8.55$)

経済情報学科の基礎学力確認テストの受験者数は 74 名（前年度比－5 名）であった。英語と総合成績は大学平均を下回ったが、数学は大学平均とほぼ同等（+0.1 点）であった。総合成績の平均は 38.6 点 ($SD = 8.55$) で、大学平均（40.9 点）を 2.3 点下回った。前年度比では－1.2 点で、ほぼ同等の学力を備えている。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると 47.62 となり、学科間の比較では大学全体の中で中位に位置すると言える。英語と総合成績の標準偏差が前年度よりもやや大きくなっており、これは受験者の学力の幅がやや広がったことを意味している。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値が 64.09 となったが、これらの区分の入学者は 2 名（2.1%）である。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の 31.1%と、やや高い比率を示している。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並み（大学平均－1 標準偏差以上＝31.2 点以上）の受験者は学科の 79.7%を占め、前年度比では 12.6 ポイント上がった。大学平均－1 標準偏差以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は 20.3%で、前年度よりも 5.0 ポイント下がった。一方、学科の 14.9%を占めるスポーツエントリー選抜の入学者（11 名）の成績は、学内偏差値が 40 以下となっており、この区分の入学者の学力には懸念がある。また、英語と総合成績の標準偏差がやや拡大しており、上位層と下位層の間で、英語の学力差がやや拡大している可能性が窺える。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約 80%は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：74 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：15 名（20.3%、－15.1 ポイント）
- ②まあまあ持っている：55 名（74.3%、+12.3 ポイント）
- ③あまり持っていない：4 名（5.4%、+2.9 ポイント）

④持っていない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は 94.6%（前年度比－2.9 ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも 2.4 ポイント低くなった。全体の約 95%の学生が「学修意欲がある」と回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：74 名分

- ①一致している：38 名（51.4%、+3.3 ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：16 名（21.6%、－12.6 ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：3 名（4.1%、－1.0 ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：14 名（18.9%、+10.0 ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2 名（2.7%、－1.1 ポイント）
- ⑥その他：1 名（1.4/0.0%、+1.4 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 73.0%（前年度比－9.3 ポイント）であった。大学全体の数値（87.1%）を 14.1 ポイント下回り、全学科の中で最も低い値となった。全学科の中で 80%未満の 2 学科のうちの 1 学科である。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言えるが、選択肢④と選択肢⑤の合計が 21.6%と 2 割を超えているなど、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：74 名分

- ①とても楽しみ：21/22 名（28.4%、+0.6 ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：45/50 名（60.8%、－2.5 ポイント）
- ③あまり楽しみではない：7 名（9.5%、+0.6 ポイント）
- ④楽しみではない：1/0 名（1.4%、+1.4 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 89.2%であり、大学全体の数値（91.9%）より 2.7 ポイント低くなった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：74 名分 (欠損なし)

- ①ある：11 名 (14.9%、-3.0 ポイント)
- ②まあまあある：34 名 (45.9%、+7.4 ポイント)
- ③あまりない：25 名 (33.8%、-5.9 ポイント)
- ④ない：4 名 (5.4%、+1.6 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 60.8%で、大学全体の数値 (60.3%) とほぼ同じであった。約 60%の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校 2 年～3 年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：74 名分 (欠損なし)

- ①とてもそう思う：17 名 (23.0%、-6.1 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：52 名 (70.3%、+12.1 ポイント)
- ③あまりそう思わない：5 名 (6.8%、-3.3 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (0.0%、-2.5 ポイント)

※比率の増減の合計が 100 にならないのは、小数点以下の丸めの関係による

選択肢①と選択肢②の合計は 93.2% (前年度比+5.9 ポイント) で、大学全体の数値 (93.3%) とほぼ同じ値であった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、学科の学修内容と興味関心の一致の程度が低いことや、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済情報学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-5. 芸術学部芸術学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：19.3 ($SD = 6.54$)、数学：22.7 ($SD = 3.84$)、総合 42.0 ($SD = 8.48$)

芸術学科の基礎学力確認テストの受験者数は73名（前年度比－12名）であった。英語、数学、総合成績のすべてで、大学平均とほぼ同等（英語＋1.0点、数学＋0.1点、総合成績＋1.1点）であった。総合成績の平均は42.0点（ $SD = 8.48$ ）であった。前年度比では－0.4点で、ほぼ同等の学力を備えている。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると51.15となり、学科間の比較では大学全体の中で中位に位置すると言える。また、総合成績の標準偏差は、前年度唯一10を超えた学科であったが、今年度は8.48で、学力の幅が縮小したと言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値が59.69となった。この区分の受験者の比率は学科の11.0%である。その他、学内偏差値が55以上の区分が2つあるが、これらの区分の受験者は各1名である。学内偏差値が45に届かない入試区分はなく、概ね45～55の範囲にあり、この点からも芸術学科が、受験者全体の中位の集団にあることが明らかである。

大学平均以上または大学平均並み（大学平均－1標準偏差以上＝31.2点以上）の受験者は学科の89.0%を占め、前年度比では9.3ポイントと大幅に上がった。大学平均－1標準偏差以下（入学者全体の下位15.93%）に相当する受験者の比率は11.0%で、前年度よりも10.2ポイント下がった。上位層の増加分と下位層の減少分がほぼ一致するので、標準偏差からも示されるように、今年度は学科内の学力の差が縮小し、高めにシフトしたと言える。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。また、前年度と比較して、平均点ではあまり差がないが、学内偏差値が45～55の範囲に集中していることや、標準偏差が小さくなっていることから、入学者の学力が、本学の中位層に集中するようになったと言える。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：73名分

- ①とても持っている：30名（41.1%、－6.0ポイント）
- ②まあまあ持っている：39名（53.4%、＋1.6ポイント）

③あまり持っていない：3名（4.1%、+2.9ポイント）

④持っていない：1名（1.4%、+1.4ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 94.5%（前年度比−4.3ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも 2.5ポイント低くなった。学修意欲があると回答した学生が 90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：72名分（欠損1）

①一致している：58名（80.6%、+0.6ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：10名（13.9%、−1.4ポイント）

③興味関心とは異なる分野：0名（0.0%、増減なし）

④まだ自分の興味関心がわからない：2名（2.8%、−0.7ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1名（1.4%、+0.2ポイント）

⑥その他：1名（1.4%、+1.4ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 94.4%で、大学全体の数値（87.1%）よりも 7.3ポイント高くなった。芸術学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に 90%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：73名分

①とても楽しみ：23名（31.5%、−7.3ポイント）

②まあまあ楽しみ：46名（63.0%、+11.2ポイント）

③あまり楽しみではない：4名（5.5%、−2.7ポイント）

④楽しみではない：0名（0.0%、−1.2ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 94.5%（前年度比+3.9ポイント）で、大学全体の数値（91.9%）よりも 2.6ポイント高くなった。これは、全学科の中で2番目に高い値である。90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：73 名分 (欠損なし)

- ①ある：4 名 (5.5%、+0.8 ポイント)
- ②まあまあある：40 名 (54.8%、+14.8 ポイント)
- ③あまりない：26 名 (35.6%、-11.5 ポイント)
- ④ない：3 名 (4.1%、-4.1 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 60.3% (前年度比+15.9 ポイント) で、大学全体の数値 (60.3%) と同じ値となった。半数を超える学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校 2 年～3 年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：73 名分 (欠損なし)

- ①とてもそう思う：26 名 (35.6%、+0.3 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：42 名 (57.5%、-6.0 ポイント)
- ③あまりそう思わない：5 名 (6.8%、-5.6 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (0.0%、増減なし)

選択肢①と選択肢②の合計は 93.2% (前年度比-5.6 ポイント) で、大学全体の数値 (93.3%) とほぼ同じ値であった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、芸術学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-6. スポーツ科学部スポーツ科学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.2 ($SD=5.67$)、数学：20.8 ($SD=4.51$)、総合 36.0 ($SD=8.83$)

スポーツ科学科の基礎学力確認テストの受験者数は171名で、前年度と同数であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。総合成績の平均は36.0 ($SD=8.83$)で、大学平均(40.9点)を4.9点下回った。前年度比では-0.8点であった。また、英語、数学、総合成績のすべてで標準偏差が前年度よりもわずかに小さくなっている。前年度と比較するとほぼ同等の学力を備えているが、総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると44.93と最も低くなり、学科間の比較では大学全体の中で下位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者(学内偏差値57.36)と一般選抜(学内偏差値57.19)の成績が高くなったが、これらの区分の入学者は合わせて7名(4.1%)である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の70.2%を占める。スポーツ科学科は、学科の特性上スポーツエントリー選抜に入学者が集中しており、この区分の受験者は学科の66.1%を占めるが、平均点は34.1点で学科の平均よりも1.9点低く、大学平均よりも6.8点低い。学内偏差値に換算すると42.93である。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並み(大学平均-1標準偏差以上=31.2点以上)の受験者は学科の68.4%を占める。大学平均-1標準偏差以下(入学者全体の下位15.93%)に相当する受験者の比率は35.1%で、前年度よりもポイント上がった。総合成績が大学平均に届かない受験者は、学科の約96%に相当する。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると考えられるが、学科の約70%に学力的な問題が示唆され、特に成績の低い一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である(増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」(表2-1)

有効回答数：170名分(欠損なし)

- ①とても持っている：76名(44.7%、+3.2ポイント)
- ②まあまあ持っている：89名(52.4%、+0.4ポイント)
- ③あまり持っていない：5名(2.9%、-0.6ポイント)

④持っていない：0名（0.0%、-2.9ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は97.1%で、大学全体の数値（97.0%）とほぼ同じ値であった。学修意欲があると回答した学生が90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：169名分（欠損1）

①一致している：135名（79.9%、-4.3ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：21名（12.4%、+1.9ポイント）

③興味関心とは異なる分野：0名（0.0%、増減なし）

④まだ自分の興味関心がわからない：9名（5.3%、+2.4ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：3名（1.8%、増減なし）

⑥その他：1名（0.6%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は92.3%（前年度比-2.4ポイント）で、大学全体の数値（87.1%）よりも5.3ポイント高くなった。スポーツ科学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に90%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：170名分（欠損なし）

①とても楽しみ：80名（47.1%、+8.5ポイント）

②まあまあ楽しみ：77名（45.3%、-8.5ポイント）

③あまり楽しみではない：12名（7.1%、+0.1ポイント）

④楽しみではない：1名（0.6%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は92.4%（前年度比で増減なし）であり、大学全体の数値（91.9%）とほぼ同じであった。90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表3-2）

有効回答数：170名分

- ①ある：27名（15.9%、-7.5ポイント）
- ②まあまあある：90名（52.9%、+6.7ポイント）
- ③あまりない：47名（27.6%、+2.5ポイント）
- ④ない：6名（3.5%、-1.8ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は68.8%（前年度比-0.8ポイント）で、大学全体の数値（60.3%）よりも8.6ポイント高く、全学科の中で2番目に高い値となった。約7割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていることを示しており、他の学科とは対照的である。スポーツ科学科は、学科の特性として運動部での活動を入学時から視野に入れている学生が多く、それがイメージ形成の高さに関係しているかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」（表 3-3）

有効回答数：170名分（欠損なし）

- ①とてもそう思う：87名（51.2%、+3.8ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：71名（41.8%、-4.4ポイント）
- ③あまりそう思わない：11名（6.5%、+0.1ポイント）
- ④まったくそう思わない：1名（0.6%、+0.6ポイント）

※比率の増減の合計が100にならないのは、小数点以下の丸めの関係による

選択肢①と選択肢②の合計は92.9%（前年度比-0.7ポイント）で、大学全体の数値（93.3%）とほぼ同じであった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

スポーツ科学科は、アドミッションポリシーの適用において、学科特性として入学後の活動意欲に重きを置く学科である。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、スポーツ科学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-7. 栄養学部栄養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：22.0 ($SD = 6.05$)、数学：24.3 ($SD = 3.93$)、総合 46.3 ($SD = 8.70$)

栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 88 名（前年度比+5 名）であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも高くなった。総合成績の平均は 46.3 点 ($SD = 8.70$) で、大学平均（40.9 点）を 5.4 点上回った。前年度比では -1.3 点であった。また、英語、数学、総合成績のすべてで標準偏差が前年度よりもやや大きくなっている。総合成績の学科平均を学内偏差値に換算すると 55.60 となり、最も高い値となった。学科間の比較では大学全体の中で上位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 62.02）、一般選抜（学内偏差値 63.31）で入学した受験者の成績が高くなった。学内偏差値が 45 未満の入試区分はない。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=31.2 点以上）の受験者は学科の 94.3% を占める。大学平均-1 標準偏差以下（入学者全体の 下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 5.7/3.6% で、前年度よりも 2.1 ポイント上がった。

評価

基本的な学力は学内でも上位に位置しており、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：88 名分

- ①とても持っている：56 名（63.6%、-2.7 ポイント）
- ②まあまあ持っている：31 名（35.2%、+1.5 ポイント）
- ③あまり持っていない：1 名（1.1%、+1.1 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は 98.9%（前年度比-1.1 ポイント）で、大学全体の数値（97.0%）よりも 1.9 ポイント高くなった。栄養学科は、卒業時に国家試験の受験を目標としており、学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。ほぼ全員が、学修意欲があると回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：88 名分

- ①一致している：80 名 (90.9%、-0.7 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：5 名 (5.7%、-1.5 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%、増減なし)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：2 名 (2.3%、+1.1 ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名 (1.1%、+1.1 ポイント)
- ⑥その他：0 名 (0.0%、増減なし)

選択肢①と選択肢②の合計は 96.6%で、大学全体の数値 (87.1%) よりも 9.5 ポイント高く、全学科の中で最も高い数値となった。栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、ほぼ全員が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：88 名分 (欠損なし)

- ①とても楽しみ：33 名 (37.5%、+7.4 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：51 名 (58.0%、-8.3 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：4 名 (4.5%、+0.9 ポイント)
- ④楽しみではない：0 名 (0.0%、増減なし)

選択肢①と選択肢②の合計は 95.5%であり、大学全体の数値 (91.9%) よりも 3.6 ポイント高く、全学科の中で最も高い数値となった。95%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：88 名分 (欠損なし)

- ①ある：12 名 (13.6%、+3.8 ポイント)
- ②まあまあある：39 名 (44.3%、-13.0 ポイント)
- ③あまりない：35 名 (39.8%、+8.1 ポイント)
- ④ない：2 名 (2.3%、+1.1 ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は 58.0/67.1%（前年度比-9.1 ポイント）で、大学全体の数値（60.3%）よりも 2.3 ポイント低くなった。前年度は約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていたが、今年度は大きく数値が低下した。栄養学科は卒業後の進路が明確な学科であるが、その進路が大学生活に関する十分なイメージ形成につながっていない。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校 2 年～3 年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を実体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表 3-3）

有効回答数：88 名分

- ①とてもそう思う：38 名（43.2%、+2.2 ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：48 名（54.4%、+0.2 ポイント）
- ③あまりそう思わない：2 名（2.3%、-1.3 ポイント）
- ④まったくそう思わない：0 名（0.0%、-1.2 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.7%（前年度比+2.5 ポイント）で、大学全体の数値（93.3%）よりも 4.5 ポイント高くなった。95%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。このような高い値が出たのは、栄養学科が進路が明確である学科であることとも関係している可能性がある。

評価

栄養学科は、管理栄養士国家試験の合格を目標としており、学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方で、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。また、学生生活のイメージ形成の低さについても、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性が予想されるものの、実際に入学者全体の約4割がイメージを持っていないことは事実であり、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

カリキュラムポリシーの評価においては、各学科における教養・専門・卒業研究／卒業論文等の合格率と履修放棄率を用いた。

2021年度に開講されたすべての科目から卒業単位に算入されない科目を除き、残る科目を教養科目と外国語科目の必修科目、専門科目の必修科目と選択科目に分けた。これらの科目について、成績評価の内訳を整理し、成績評価の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の数に基づいて、履修取消者を除き、最終的な評価まで受講した履修登録者に占める履修放棄率を算出した。履修取消はGPAの算出に影響しないこと、および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれている（学修行動に影響する取消ではない）ことから、分析においては「放棄」のみを対象とした。

各学科の分析において用いている科目のカテゴリー名は、すべて各学科の教育課程表に準じて記載した。カリキュラムの移行がある学部・学科については、新旧それぞれの科目に分けて計算した。また、2020年度からクォーター制が導入され、2年生以上で半期科目となっている科目の一部が、1年生ではクォーター科目となっている。これらの科目については、2019年度までの入学生が同時履修している（主に再履修または文学科の他専攻履修）場合、成績評価を合算して算出することができないため、別科目として算出した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修 16 科目（初年次教育 4 科目、キャリア教育 6 科目、第一外国語 6 科目）、専門科目から 196 科目の合計 212 科目を対象とした。専門科目を、さらに各専攻の 1、2 年次の必修または選択必修 28 科目、必修の学科共通専門 1 科目、選択科目 166 科目（4 専攻分）、卒業研究 1 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。各専攻の 1、2 年次必修・選択必修科目には、2 年次以降に他の専攻の学生が履修している科目が含まれており、いずれか 1 専攻の合格率だけを示した数値ではないことに注意されたい。

②合格率と履修放棄率

教養科目の合格率については、初年次教育科目 94.1%、キャリア教育科目 88.3%、第一外国語 91.7% となり、教養必修 16 科目の平均は 91.0%であった。専門科目の合格率については、学科共通専門科目が 99.5%、卒業研究が 98.7%であった。各専攻の必修・選択必修科目については、合格率の平均は 89.1%で、28 科目中 6 科目（21.4%）が合格率 100%であった。その他の選択科目では、合格率の平均は 92.4%であった。166 科目中 56 科目（33.7%）が合格率 100%であった。

履修放棄率は、教養科目ではキャリア教育のうち 1 科目が 50%を超えたが、この科目は欠席過多の受講生を「不可」ではなく「放棄」と扱う科目であり、また 4 名の過年度生向けに開講している再履修の科目である。専門科目のうち、各専攻の必修・選択必修科目のカテゴリーに、履修放棄率が 10%を超える科目が 2 科目あり、最も高い値を示した科目では 20.0%に達した。ただし、この科目は再履修の 2 年生以上のみを別計算とした科目である。選択科目については、一部に 15%以上の高い履修放棄率を示した科目があるが、これらの科目には履修登録が 15 名未満のものが多い。20 名を超える履修者がいる科目で履修放棄率が 15%を超えた科目は 1 科目のみであった。

評価内訳については、「秀」が 21.0%、「優」が 29.4%、「良」が 23.0%、「可」が 19.3%であった。いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。初年次教育科目では、「秀」と「優」の合計が 67.0%に達しているが、学修の動機づけの観点からやむを得ない面もある。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が 50.4%で、前年度（48.8%）よりも 1.6 ポイント高くなった。科目カテゴリー間の合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画に齟齬を来す欠点はないと判断する。

2-1-2. 教育学科

①評価の対象とする科目

今年度の分析から、科目選択を他学部と同様の区分に統一した。教養科目のうち必修 6 科目、専門科目から 127 科目を対象とした。さらに専門科目を必修 17 科目、選択 109 科目、卒業研究 1 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

合格率については、教養必修科目の平均が 91.2%、専門必修科目の平均が 96.3%、専門選択科目の平均が 95.4%であった。卒業研究は、合格率 100.0%であった。専門必修科目では、17 科目中 7 科目（41.2%）が合格率 100%に達した。専門選択科目では、109 科目中 44 科目（40.4%）が合格率 100%であった。

履修放棄率の平均は、教養必修科目 4.8%、専門必修科目 1.6%と、必修科目はいずれも平均が 5%未満であった。専門選択科目では 1.8%であった。専門選択科目の中に、放棄率が 25.0%に達した科目があるが、履修登録者が 5 名未満の科目である。

評価内訳については、「秀」が 25.9%、「優」が 36.5%、「良」が 20.1%、「可」が 11.5%であった。どの科目カテゴリーにも評価割合の大きな偏りは見られず、科目の特性を反映した評価になっており、また、学生の学びを適切に評価していると考えられる。対象としたすべての科目での「秀」と「優」の合計は 62.4%で、前年度（55.7%）よりも 6.7 ポイント増加した。

前年度の評価時点よりも対象科目が増え、さらに対象科目の選択方法も異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

教育学科の今年度の評価は、完成年度を迎えて教育課程を修了した学生を含むものである。対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。現状の評価からはカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-2. 経営情報学部経営情報学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修6科目、専門科目から99科目の合計105科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目5科目、選択科目92科目、卒業研究相当科目2科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

現在の経営情報学科1学科への改組（2016年度）以前の旧2学科のカリキュラムの科目は、分析対象から除外した。また、2020年度の経済学部の設置に伴って募集停止となったため、所属している学生は3、4年生である。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が57.5%であった。これは、履修人数が5名以下の1年次の必修科目の再履修において、全員が履修放棄となった科目が2科目あるためである。これらの科目を除外して3年次以降の必修科目（2科目）に限定すると、合格率は97.5%となる。専門科目については、必修科目の合格率の平均は76.7%、選択科目の合格率の平均は76.5%、卒業研究相当科目の合格率の平均は100.0%であった。卒業研究相当科目の合格率は100.0%であった。いずれのカテゴリーにおいても、前年度に比べてやや数値が低くなっている。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目では再履修の1科目のみ、専門選択科目5科目、卒業研究相当科目2科目の合計8科目（7.6%）であった。他学科よりも、合格率100%に達する科目が少ない。

履修放棄率は、教養必修科目が41.7%、専門必修科目が16.7%、専門選択科目が11.9%であった。教養と専門の必修科目の中に履修放棄率が50%を超えた科目がそれぞれ1科目ずつあるが、これらの科目は前述の通り1年次科目の再履修者のみを対象にしたものである。専門選択科目では、履修放棄率が20%を超える科目が25科目あり、このうち3科目は50.0%を超えている。これらの科目は再履修または教員免許取得のための他学部開講科目である。

評価内訳については、「秀」が15.1%、「優」が25.6%、「良」が22.78%、「可」が23.7%となり、「秀」の比率が低めである他は、ほぼ均等である。「秀」と「優」の合計は40.7%で、前年度（37.9%）より、2.8ポイント増加した。専門選択科目のうち13科目に「可」の比率が50%を超えるものが見られた。

前年度とは対象科目の選択方法が異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学んでいると認められる。

2-3. 経済学部経済学科／経営学科

①評価の対象とする科目

経済学部は2020年度開設で、在籍しているのは1、2年生である。対象とする科目の一部が経済学科と経営学科合同で実施されていることを踏まえ、2学科を合算して分析した。

教養科目から必修10科目、専門科目から50科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目3科目と選択科目47科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が98.1%であった。専門科目については、必修科目の合格率の平均は93.0%、選択科目の合格率の平均は89.9%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目に3科目、専門選択科目に4科目の合計7科目（11.7%）であった。他学科よりも、合格率100%に達する科目が少ない。

履修放棄率の平均は、教養必修科目が0.9%、専門必修科目が3.3%、専門選択科目が4.5%で、いずれも前年度と大きな差異は見られなかった。履修放棄率が20%を超える科目はなかった。

評価内訳については、「秀」が21.8%、「優」が24.5%、「良」が22.0%、「可」が23.9%となり、全体としてほぼ均等である。「秀」と「優」の合計は46.4%で、前年度（48.9%）よりも2.5ポイント減少した。

同じ科目カテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学修を開始できたと認められる。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

①評価の対象とする科目

経済情報学部は2020年度開設で、在籍しているのは1、2年生である。教養科目から必修9科目、専門科目から42科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目3科目と選択科目39科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が99.2%であった。専門科目については、必修科目の合格率の平均は99.6%、選択科目の合格率の平均は89.9%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目に7科目、専門必修科目に2科目、専門選択科目に10科目、合計19科目(37.3%)であった。他学科よりも合格率100%に達する科目が多く、必修科目に限れば9科目(75.0%)が合格率100%で、残る3科目も合格率90%以上であった。

履修放棄率の平均は、教養必修科目が0.5%、専門必修科目が0.4%、専門選択科目が5.1%であった。履修放棄率が20%を超える科目は、専門選択科目に2科目あった。10%を超えた科目も1科目のみであった。履修放棄率が0.0%の科目は、すべての科目カテゴリーを通して26科目(51.0%)であった。

評価内訳については、「秀」が29.0%、「優」が21.9%、「良」が19.1%、「可」が20.9%となり、「秀」の比率が他の評価よりも高い傾向がある。「秀」と「優」の合計は50.9%で、前年度(68.1%)よりも17.2ポイント減少し、高い評価に偏る傾向が見られた前年度よりも均等化した。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学修を開始できたと認められる。

2-5. 芸術学部芸術学科

①評価の対象とする科目

教養必修科目 16 科目、専門科目から 157 科目を対象とした。専門科目を、さらに必修 3 科目、選択 152 科目、卒業制作 2 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目 97.3%、専門必修科目 82.9%、専門選択科目 93.8%、卒業制作 98.7% であった。合格率 100% に達した科目は、教養必修科目に 6 科目、専門必修科目に 1 科目、専門選択科目に 66 科目、卒業制作に 1 科目で、合計 74 科目（42.8%）であった。

履修放棄率は、教養必修科目 0.4%、専門必修科目 0.0%、専門選択科目 1.7%、卒業制作 0.0% であった。履修放棄率が 20% を超えた科目が専門選択科目に 3 科目あり、いずれも履修登録者 10 名未満の科目であった。

評価内訳については、「秀」が 13.7%、「優」が 36.8%、「良」が 29.3%、「可」が 15.6% となり、「優」の比率が他の評価よりも高い傾向がある。「秀」と「優」の合計は 50.5% で、前年度（49.8%）とほぼ同じ値であった。

前年度とは対象科目が一部異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

芸術学科においては、対象とした科目の履修においてつまずきや著しい理解不足はなく、学生たちは堅調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の困難・不備はないと判断する。

2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部

2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科

①評価の対象とする科目

スポーツ健康学科では、2019年度にカリキュラム改訂を実施したため、2018年度以前と2019年度以降で科目を照合し、対応する科目は同一科目として扱った。ただし、その中で必修／選択の区分が変わった科目については、対応する科目であっても別科目とした。その結果、教養必修11科目、専門必修13科目、専門選択74科目、卒業研究相当科目1科目の合計99科目を対象とした。また、2021年度のスポーツ科学部スポーツ科学科の設置に伴って募集停止となったため、在籍している学生は2～4年生である。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目で96.7%、専門必修科目で95.1%、専門選択科目で91.3%、卒業研究相当科目100.0%であった。合格率が100%となった科目は、教養必修科目6科目、専門必修科目3科目、専門選択科目21科目、卒業研究相当科目1科目で、合計31科目(31.3%)であった。一部に合格率が0.0%の科目があるが、これは履修登録者全員が保留となっている実技科目で、内容はいずれも学外施設等での実施が必要な科目である。これらの実技科目は、2021年度中は新型コロナウイルス感染症拡大の問題から実施が困難であった。

履修放棄率は、教養必修科目で1.7%、専門必修科目で1.8%、専門選択科目で3.0%であった。履修放棄率が20%を超える科目は専門選択科目の1科目のみ(実技科目)であった。履修放棄率が0.0%の科目は61科目(61.6%)であった。

評価内訳については、「秀」が18.2%、「優」が30.2%、「良」が25.0%、「可」が20.0%となった。「秀」と「優」の合計は48.4%で、前年度(48.3%)とほぼ同じ値であった。対象科目のうち14科目で「可」の評価の比率が45%を超えたが、このうち7科目が履修者10名未満である。「良」または「可」を合計すると、45.0%で、前年度(65.4%)より20.4ポイント低くなり、低い方への偏りは改善傾向にある。

評価

スポーツ健康学科では、成績評価を正規分布するよう心がけている。実際に、対象とした科目の評価割合にはその傾向が見られる。対象とした科目の履修につまづきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-6-2. スポーツ科学部スポーツ健康学科

①評価の対象とする科目

スポーツ科学部スポーツ科学科は2021年度に開設された学科で、在籍しているのは1年生のみであ

る。教養必修 6 科目、専門科目から 25 科目の合計 31 科目を対象とした。専門科目を必修 5 科目、選択 20 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目で 97.5%、専門必修科目で 96.8%、専門選択科目で 85.1%であった。合格率が 100%となった科目は、専門選択科目 4 科目（全体の 12.9%）であった。専門選択科目の合格率が非クックなっているのは、合格率が 0.0%の科目が 2 科目あるためである。これらは履修登録者全員が保留となっている実技科目で、内容はいずれも学外施設等での実施が必要な科目である。これらの実技科目は、2021 年度中は新型コロナウイルス感染症拡大の問題から実施が困難であった。

履修放棄率は、教養必修科目で 1.2%、専門必修科目で 1.0%、専門選択科目で 1.4%であった。履修放棄率が 20%を超える科目はなかった。履修放棄率が 0.0%の科目は 14 科目（45.2%）であった。

評価内訳については、「秀」が 21.7%、「優」が 28.4%、「良」が 28.2%、「可」が 17.5%となった。「秀」と「優」の合計は 50.0%であった。

評価

スポーツ科学科でも、成績評価を正規分布するよう心がけている。実際に、対象とした科目の評価割合にはその傾向が見られる。対象とした科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-6-3. 人間健康学部健康栄養学科

①評価の対象とする科目

教養必修科目 4 科目、専門科目 58 科目の合計 62 科目を対象とした。専門科目を、さらに必修 26 科目、選択 30 科目、卒業研究 2 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。2021 年度の栄養学部栄養学科の開設に伴って募集停止となったため、在籍している学生は 2～4 年生である。

②合格率と履修放棄率

健康栄養学科では、国家試験の受験資格を得るためには単位の修得が不可欠な科目が多く配置されていることから、対象とした科目については合格率の高さと履修放棄率の低さが顕著である。

合格率の平均は、教養必修科目で 100.0%、専門必修科目で 99.6%、専門選択科目で 97.2%、卒業研究で 100.0%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修科目 4 科目、専門必修科目 19 科目、専門選択科目 15 科目、卒業研究 2 科目で、合計 40 科目（64.5%）であった。対象とした科目のうち、合格率が 90%未満の科目は 1 科目である。

履修放棄率は、教養必修科目と卒業研究ともに 0.0%、専門必修科目で 0.2%、専門選択科目で 1.3%となり、いずれも 2%未満であった。履修放棄率が 20%を超える科目はなかった。すべての科目で履修放棄率は 10%以下であり、履修放棄率が 0.0%の科目は 47 科目（75.8%）であった。

評価内訳については、「秀」が 10.3%、「優」が 34.0%、「良」が 36.3%、「可」が 17.9%となった。「秀」と「優」の合計は 44.4%であった。「優」と「良」の評価割合が高くなる傾向があり、「優」と「良」の合計は 70.3%であった。

募集停止に伴い、1 年次科目を除外したため前年度とは対象科目が一部異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。前年度一部の実験・実習科目で顕著であった低い評価に偏る傾向については、今年度も引き続き一部の科目に残っており、今後の精査が必要である。

2-6-4. 栄養学部栄養学科

①評価の対象とする科目

スポーツ科学部スポーツ科学科は 2021 年度に開設された学科で、在籍しているのは 1 年生のみである。教養必修 5 科目、専門科目から 24 科目の合計 30 科目を対象とした。さらに、専門科目を必修 15 科目、選択 9 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

栄養学科では、国家試験の受験資格を得るためには単位の修得が不可欠な科目が多く配置されていることから、対象とした科目については合格率の高さと履修放棄率の低さが顕著である。

合格率の平均は、教養必修科目で 100.0%、専門必修科目で 98.4%、専門選択科目で 97.5%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修科目 4 科目、専門必修科目 7 科目、専門選択科目 3 科目で、合計 14 科目（46.7%）であった。対象とした科目のすべてで、合格率が 90%以上であった。

履修放棄率は、教養必修科目と卒業研究ともに 0.0%、専門必修科目で 0.2%、専門選択科目で 1.3%となり、いずれも 2%未満であった。履修放棄率が 20%を超える科目はなかった。すべての科目で履修放棄率は 10%以下であり、履修放棄率が 0.0%の科目は 24 科目（80.0%）であった。

評価内訳については、「秀」が 28.0%、「優」が 28.7%、「良」が 24.2%、「可」が 16.5%となった。「秀」と「優」の合計は 56.8%で、高めの評価の割合が高くなる傾向が見られる。同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する

3. 大学のカリキュラムポリシーに関する総合評価

大学においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。一部の実技系科目に、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が見られているが、これは不可抗力と言ってよい。

したがって、即時にカリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた履修放棄率の高さ並びに低い評価への偏りについては、今後の詳細な検討を必要とする。また、新設のスポーツ科学部スポーツ科学科と栄養学部栄養学科については、まだ1年次カリキュラムの評価に留まっているので、今後の学年進行に伴ってカリキュラムを精査する必要がある。

III. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。()内の数字は、前年度比の数値である。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2018年4月の入学者のうち、2022年3月に4年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、当該の学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。この分析においては、卒業した学生数に3年次編入生は含んでいない。

③就職内定率

2022年3月31日現在の各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。この分析においては、3年次編入生を含めた数値となっている。

文学部教育学科においては教員採用試験、保育士採用等の合格率、健康栄養学科においては管理栄養士国家試験の合格率も、合わせて示した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

文学科全体で 151 名（前年度は 158 名）が履修し、合格率は 98.7%（同 94.3%）であった。放棄が 1 名（同 8 名）おり、履修放棄率は 0.7%（同 5.1%）であった。評価割合は、「秀」が 18.3%（同 15.3%）、「優」が 33.3%（同 29.1%）、「良」が 32.7%（同 22.1%）、「可」が 14.4%（同 20.3%）であった。前年度と比較して、評価割合に大きな差異は認められなかった。「秀」または「優」の比率は、履修者全体の 51.6%（同 44.3%）であった。

②卒業率（4 年間での学修達成率）

2018 年 4 月に入学した学生は 170 名であった。このうち 82.9%に相当する 141 名が、4 年間で教育課程を修了し 2021 年 3 月に卒業した（前年度 88.0%）。

③就職内定率

就職希望者 122 名に対して、内定者は 119 名（内定率 97.5%）であった。大学院進学等は 11 名で、卒業生全体の 7.3%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2021 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-1-2. 教育学科

教育学科は 2022 年 3 月に最初の卒業生を輩出した学部であり、前身となる学部学科は存在しないため、以下の①～③の分析においては前年度の数値はない。

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

学科全体で 50 名が履修し、合格率は 100.0%、履修放棄率は 0.0%であった。評価割合は、「秀」が 54.0%、「優」が 30.0%、「良」と「可」が 8.0%であった。「秀」または「優」の比率は、履修者全体の 84.0%であった。

②卒業率（4 年間での学修達成率）

2018 年 4 月に入学した学生は 49 名であった。このうち 98.0%に相当する 48 名が、4 年間で教育課程を修了し 2021 年 3 月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者 47 名に対して、内定者は 47 名（内定率 100.0%）であった。内定者には、下記の教員採

用試験の合格者や幼稚園教諭、保育士の合格者に加え、各自治体の講師採用者が含まれる。大学院進学等は1名で、卒業生全体の2.0%であった。

教員採用試験の状況については、2次試験が複数の自治体で重なる等の事情で辞退した分を削除して算出した。34名の学生が、延べ47自治体を受験した（辞退2を合わせると49自治体）。合格者数は延べ22名で、合格率は46.8%であった。合格者数を実数に直すと15名である。この他に1名が私立小学校に合格しており、最終的な教員採用は16名で、就職希望者の34.0%であった。

公立保育士については、3名の学生が延べ4自治体を受験した。合格者数は延べ2名で、合格率は50.0%であった。合格者数を実数に直すと1名である。私立の幼稚園教諭、保育教諭、保育士については、5名の学生が延べ6施設を受験した。合格者数は述べ5名で、合格率は83.3%であった。合格者の実数も5名であった。この5名の中に公立保育士の不合格者は2名とも含まれており、幼稚園教諭・保育士等の合格者は、公立・私立の合計の実数で6名の受験に対して、全員が合格した。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-2. 経営情報学部経営情報学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

経営情報学科で卒業研究に相当する科目は、「演習Ⅰ」（前期）と「演習Ⅱ」（後期）の2科目である。「演習Ⅰ」の合格率は100.0%（前年度97.8%）であった。評価割合は、「秀」21.9%（同12.2%）、「優」43.8%（同40.9%）、「良」20.7%（同26.0%）、「可」13.6%（同18.8%）であった。履修者全体の65.7%（同53.0%）が「秀」または「優」であった。

「演習Ⅱ」の合格率は100.0%（同98.4%）であった。評価割合は、「秀」21.4%（同15.9%）、「優」42.3%（同41.2%）、「良」18.5%（同20.3%）、「可」17.9%（同20.9%）であった。履修者全体の63.7%（同57.1%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2018年4月に入学した学生は182名であった。このうち86.8%に相当する158名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した（前年度85.5%）。

③就職内定率

就職希望者167名に対して、内定者は166名（内定率99.4%）であった。大学院進学等は2名で、卒業生全体の1.1%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 経済学部

2-3-1. 経済学科

完成年度を迎えていないため、2021年度は卒業生を輩出していない。

2-3-2. 経営学科

完成年度を迎えていないため、2021年度は卒業生を輩出していない。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

完成年度を迎えていないため、2021年度は卒業生を輩出していない。

2-5. 芸術学部芸術学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

芸術学科の卒業研究に相当する科目は「卒業制作・研究Ⅱ」である。2021年度の「卒業制作・研究Ⅱ」は、芸術学科全体で67名が履修履修（前年度53名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者は、前年度と同様にいなかった。評価割合は、「秀」19.4%（同18.9%）、「優」35.8%（同43.4%）、「良」32.8%（同24.5%）、「可」11.9%（同13.2%）であった。前年度比で「秀」と「良」の比率がやや増加し、「優」と「可」の比率が減少した。履修者全体の55.2%（同62.3%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2018年4月に入学した学生は74名であった。このうち86.5%に相当する64名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した（前年度88.1%）。

③就職内定率

就職希望者61名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。大学院進学等は3名で、卒業生全体の4.5%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部

2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

スポーツ健康学科の卒業研究に相当する科目は「専門演習Ⅱ」である。2021年度の「専門演習Ⅱ」は、スポーツ健康学科全体で129名が履修（前年度は110名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」43.4%（同46.4%）、「優」34.1%（同30.9%）、「良」14.0%（同15.5%）、「可」8.5%（同7.3%）であった。前年度比で「優」と「可」の比率が増加し、「秀」と「良」が減少した。履修者全体の77.5%が「秀」または「優」であった（前年度77.3%）。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2018年4月に入学した学生は132名であった。このうち93.2%に相当する123名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した（前年度84.7%）。

③就職内定率

就職希望者124名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。大学院進学等は2名で、卒業生全体の1.6%であった。

評価

「専門演習Ⅱ」は、退学者以外に放棄した学生はおらず、「秀」が全体の46%を占めた。熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多く、順調な学修成果を上げたと判断する。

以上①から③までの評価に基づき、2020年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6-2. スポーツ科学部スポーツ科学科

完成年度を迎えていないため、2021年度は卒業生を輩出していない。

2-6-3. 健康栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

健康栄養学科の卒業研究相当科目は、「卒業研究Ⅰ」（前期）と「卒業研究Ⅱ」（後期）の2科目である。「卒業研究Ⅰ」の合格率は100.0%（前年度100.0%）で、前年度と同じく履修放棄した者はいなかった。評価の割合は、「秀」21.3%（同34.4%）、「優」56.0%（同39.1%）、「良」21.3%（同14.1%）、「可」1.3%（同12.5%）であった。履修者全体の77.3%が「秀」または「優」であった（同73.4%）。「卒業研究Ⅱ」の合格率は100.0%（同98.5%）で、履修放棄した者はいなかった（前年度1名）。評価割合は、「秀」27.6%（同26.2%）、「優」53.9%（同53.1%）、「良」18.4%（同15.6%）、「可」0.0%（同

4.7%)であった。履修者全体の81.6%(同78.5%)が「秀」または「優」であった。

2科目平均の合格率は100.0%であった。「秀」と「優」の比率は、2科目全体で79.5(前年度76.0%)であった。

②卒業率(4年間での学修達成率)

2018年度4月に入学した学生は76名であった。このうち96.1%に相当する73名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した(前年度88.1%)。

③就職内定率および管理栄養士国家試験合格率

就職希望者63名の全員が内定を得た(内定率100.0%)。管理栄養士国家試験の合格率は、95.0%(同98.0%)であった。

評価

「卒業研究Ⅰ」および「卒業研究Ⅱ」は、全員が合格し、履修者全体の70%以上が「秀」または「優」となり、熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多かったことがうかがえる。また管理栄養士国家試験の合格率の高さからも、順調な学修成果を上げたことが示されている。以上①から③までの評価に基づき、2020年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6-4. 栄養学部栄養学科

完成年度を迎えていないため、2021年度は卒業生を輩出していない。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないと言える。